



愛宕町の家

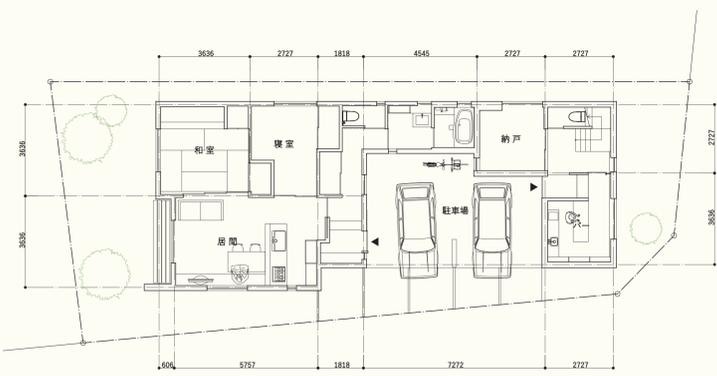
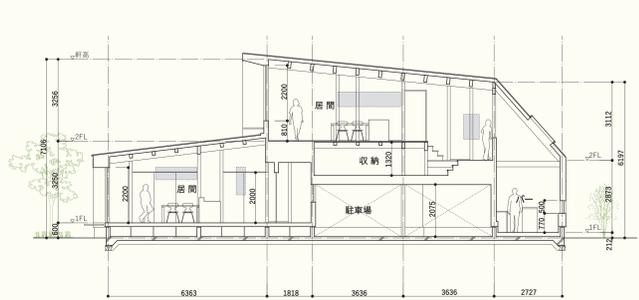
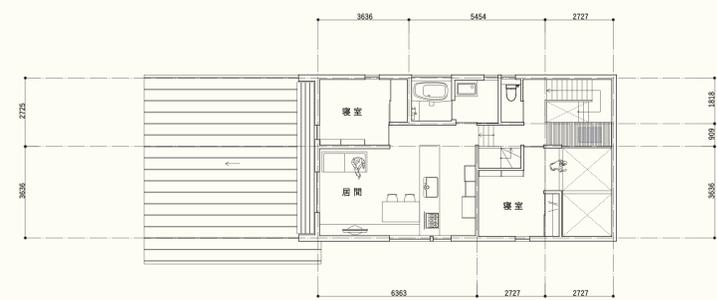
開放と閉鎖の境界線

敷地から

富山市の中心部にある住宅地で長年にわたり商店を営んできた住まいは、やがて周辺の戸建て住宅がアパートやマンションに変わり、気が付けば大きな建物に囲まれるようになっていました。その商店も店じまいされることになり、また息子さんご家族との同居を機に、二世帯住宅へ建て替える計画が始まりました。敷地の南面はアパートの廊下と駐車場、西面はマンションのバルコニー、東面は道路とスーパーの買い物客、北面はほどほどの交通量がある道路…と、すべての面からの視線をケアしなければいけない状況において、明るく開放的な住まいをつくるにはどうしたら良いか。一般的には塀を設け、プライバシーを保ちながら開放的な窓を設ける案や、中庭を設けることでプライバシーと明るさを担保するような計画が考えられますが、隣接マンションからの離隔距離が小さく、のぞき込みなどの懸念や、敷地の大きさなどの条件から中庭や塀で囲まれた庭を設けるような案は難しい状況でした。そこで、外壁に設ける窓の位置やかたち、大きさなどを十分に検討し、閉塞的にならないギリギリを求める設計となりました。

窓のかたちを考える

窓の機能は、光を取り入れる、風を取り入れる、景色を取り入れる…といった受動的な役割があります。それ以上に重要なのは内部からの視線を遠方に導き、内部空間の圧迫感・閉塞感を軽減することにあります。この住まいでは視線が抜ける場所を限定し、場所によっては空を見るような抜け方を選択することで、内部空間の快適性をつくっていきました。その過程で、住まい手からの「住まいにパーを設けたい」「絵を飾り眺めて暮らしたい」という要望を手掛かりに、最初に「うす暗い空間」と「明るくする空間」に分類し、次に「照度を取るための窓」と「閉塞感を軽減するための窓（遠方を見渡すための窓）」に大別しました。これに「プライバシーを守るための位置」と「風を取り込むための最適な位置」などの要素を加味し、全体の位置やかたちを整えていきました。それとは別に照度や開放性が強く求められるような居間については、カーテンや植栽の力を借りながら大きな窓を設け、適度な囲まれ感による居心地の良さをもった空間を導き出しています。



1階平面図

付近見取図

